

## 研修報告書 No.4

### 県外病院初期臨床研修医

2019年4月1日から1か月間、嶺北中央病院・長沢診療所・大川村小松診療所にて研修をさせていただきました。

嶺北中央病院は、一般病棟55床、療養病棟44床から成る、嶺北地域の基幹病院です。嶺北中央病院では、外来診療・見学や病棟管理、訪問診療、検診等の研修を行いました。外来診療では、上級医指導のもと内科外来の診療を行いました。嶺北地方では数少ない医療施設の一つであり、多くの患者さんが来院されます。一人一人に多くの時間を割くことはできず、患者さんの訴えに丁寧に耳を傾け、診察を行い、病態を把握するという一連の診療を限られた時間で行わなくてはなりません。その中で急を要する疾患を疑った場合、例えば数時間持続する胸痛があり、心電図変化もみられる患者さんがいた場合には、迅速に高知市内の急性期病院に紹介手続きを行い、救急車・ドクターヘリで搬送する必要があります。医師数が少なく医療資源の限られた地域の病院での外来診療は、特に患者さんと向き合って病態を丁寧に把握する必要があると感じました。この傾向は地方に行けば行くほど強くなると考えます。嶺北中央病院は毎日開院しており、本山町・土佐町等周辺地域の患者さんは病院に行きたいときに行くことのできるアクセスは整っていますが、大川村では同じようにはできません。大川村にお住まいの患者さんは村唯一の小松診療所にかかっていますが、小松診療所は週3回非常勤医師の派遣により成り立っています。大川村は集落が村内に散らばっており、大川村内でも小松診療所までのアクセスが悪い地域が多々あります。このような地域で暮らすご高齢の患者さんは村営の送迎バスを利用して通院されます。定期受診の際にはとても助かる仕組みですが、体調が悪くなった時すぐに診療所には行けません。また、行っても診療所に医師がいるのは週に3回午前中のみです。すぐにこうした状況を改善することは難しいと思いますが、こうした医療へのアクセスが悪い地域ではより一層、一回一回の診療で患者さんの病態を丁寧に把握し、急変を要する事態をできるだけ未然に防ぐとともに、診察で患者さんの不安をできるだけ取り払う必要があると感じました。

長沢診療所はいの町にある無床診療所で、愛媛県との県境に近い旧本川村に位置しています。長沢診療所では一般の内科外来診療に加えて、労災である振動障害のために毎日通院される患者さんが多いのが印象に残りました。振動障害はチェーンソー、刈払機などの振動工具の使用により発生する手指、前腕の末梢循環障害、末梢神経障害、運動器障害を呈する障害で、手指・前腕のしびれ、冷え、こわばり、さらにはレイノー現象を症状とします(厚生労働省ホームページ参照)。林業の盛んである高知県に多い疾患であり、患者さんは治療・リハビリテーションを受けるために毎日診療所に通院されています。急な症状や不安を呈して来院される急病の方、高血圧・心不全・脳梗塞後など持病を持っていて定期通院される

方だけでなく、労働災害により定期的に治療・リハビリテーションを必要とする方のためにも必要不可欠な施設であると感じました。また、旧本川村で大きな災害、例えば道路の工事現場で作業員がクレーン車に挟まれる等迅速な対応が必要なケースがあった際には長沢診療所の医師が呼ばれ、初期対応を行うという話を院長先生から伺いました。へき地において唯一の医師であるため、専門診療科にとらわれず、医療が必要なケースでは何でも診療しなくてはならない、地域でただ一人の医師の役割や存在の大きさについて学ぶことができました。

1か月間の高知県での地域医療実習を通して、急性期病院よりも身近な診療所と患者さんとの関係や、急性期病院を退院になった後、患者さんがどこへ退院となるのか（自宅、特別養護老人ホームなど）、それをどう決めるのか、そして地域唯一の医療機関に勤務される先生方の役割について学ぶことができました。

嶺北中央病院、長沢診療所、小松診療所の先生方、看護師さん、スタッフの皆さまに心より感謝申し上げます。1か月間ありがとうございました。